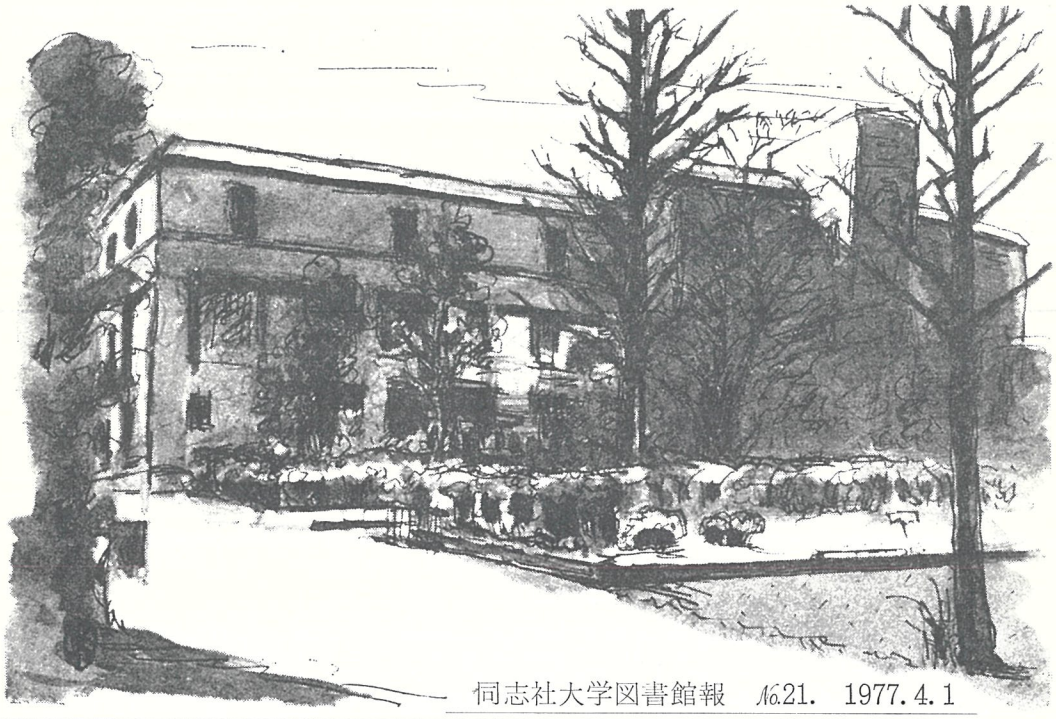
びぶりおてか



同志社大学図書館報　No.21.　1977.4.1

幸福論の復権

法学部長
大谷　実

幸福という言葉は，現代の青年にとって，それほど魅力的ではなさそうである。現代の社会情勢は，個人の生活を不安と絶望にみちびきこそすれ，決して豊かな平安を保障するものではないと考えられているからであろう。しかし，どのような哲学が流行するにせよ，あるいは，いかなる絶望的状況が生じようとも，人はみな，無意識のうちに幸福を目指して日々の営みをつづけているのである。じつに幸福こそは，人間生活の根本的指標である。

もっとも，幸福という言葉は，一種の甘いロマンティックな響きを感じさせるだけだと考える人が多いであろう。「山の彼方に空遠く，幸い住むと人のいう」とうたわれるゆえんである。その理由は，幸福感は，人によって多様であるとともに，幸福は，「青い鳥」のように，いつも手に入れるそばから逃げていく，空しいものだと考えられているからである。

しかし，多くの人生の達人たちと同様，わたくしは，幸福は得られるものだと確信している。社会や個人は，幸福に必要な基礎を求めて，精神的，物質的向上に努めてきた。わたくしは，この成果を踏まえて，自分の生活を豊かな，稔りあるものにできるという楽観的立場を選びたいと思う。だからといって，何が幸福であり，それに至る道は何かということをかたる資格はない。これは，道学者先生にまかせたい。幸福の道は，ほんらい教えられるもので

目　次

幸福論の復権（大谷実）……1
図書館３階の建設……2
文献探索(19)　人名関係資料(3)……4
外国所蔵文献の利用……9
1976年次報告……10
図書館相互交流（河崎美智子）……10
図書館の歴史(12)……11
「実例中心」資料のさがし方(11)……12
ピックアップ　フルベッキの署名本…14

はなく，個人が発見すべきものなのだから。ただ，こうはいえるであろう。第一に，不幸に至る道，すなわち究極的には精神的な生活の淪落であるが，この道を選ばないという信念とそのための教養を身につける必要があるということである。第二に，人生は長い道程であり，やがて年老いて朽ち果てることを自覚すべきである。だが「年をとる」ということは，退歩することではなく，絶えず進歩するということ，そうして「終わり」が豊かな果実となるような道を，できるだけ早く見つけることである。「終わりよければ，すべてよい」のである。

人生の目標に，もっとも敏感なのは，世俗にまみれない20歳前後の時期である。生き方に苦悩しながら，たしかな選択を目指す学生生活は，希望に満ちあふれたものとなるはずである。

図書館３階の建設について

図書館閲覧課長　前　川　嘉　門

図書館は，諸種の事情で３階未完成のまま，一応昭和48年11月末に竣工した。

基本設計者　栗原嘉一郎氏によれば，基本構想は書庫を下層（半地階および地階）の二層と上層（３階）の一層とに分け，この間に資料群と関係の深い１階・２階の諸室をはさみ込むという手法であり，換言すれば，変形サンドイッチ形式ということになる。このような形式は，日本では，非常に珍しいといわれている。

３階未完成のまま，昭和50年に「第16回　建築業協会賞（BCS PRIZE WORKS—BUILDING CONTRACTORS SOCIETY, JAPAN)」を受賞したことは，異例であり，特筆すべきことであろう。

この図書館の選評として，郡　菊夫，中田直道，西　忠雄の三審査委員は，次のように述べている。

「……設計技術の上でも種々の試みを提案しているが，その追求して行った苦しみと努力がにじみ出ており，それだけに一分の隙もなく手と心が配られている作品であると言える。……

……学校建築といえば安かろう悪かろう的安易さがみえる中で，企画・設計・施行の三点にそれぞれ慎重な配慮がなされているのは，この建築がＢＣＳ賞受賞作品として適当であると推す理由である。」と。

いずれにしても３階未仕上げのまま，いつまでも放置することは，図書館建設当初の基本構想にも抵触することになり，図書館の管理・運営上に於いても大きな支障をきたすことが考えられるのである。

既に，その支障は，書庫に現われてきたのである。本誌№19（1976.4.1刊）「書庫の収納能力の現状」の中でも述べられたように，書庫の余裕としては，段数で1,452段，一段ぎっしり詰めて平均30冊とすると43,560冊となるが，分類ごとの相当スペースを見込む等書架の適正収納の原則等を遵守してゆくと，17,790冊と激減することになり，図書館の平均受入冊数を約8,000冊とすると約２年後に書庫運用上大きな支障をきたすことが予想されるとあるが，それから１年を経過した今日では，殆んど書庫の収容能力に於ける余裕はないといえるのである。例えば，書架の棚板一段の巾は，約90cm，奥行30.5cm，棚板の間隔約27cmであり，１冊約３cmの巾の図書をぎっしり詰めて30冊ということになるが，参考図書，雑誌のバックナンバー等の中には，巾14cm前後のものもあり，一段に６冊ぐらいしか配列できないこともあり，さらに新聞のバックナンバーに於いては，巾6.5cm，高さ54.5cm，奥行41cmとなっているものもあり，一段あたりの収容冊数は，さらに減るものもあるからである。

このように，書庫の窮状は，いなめない事実であり，早急に３階未仕上げ書庫の完成が強く望まれていたのである。

又，新法経研究室の完成に伴なって，明徳館内に大学院の諸施設の整備，図書館３階の一部に大学院読書室の設置等が具体化するという学内事情もあって，図書館３階の完成工事が急速に進展する運びとなったのである。しかしながら，大学院読書室は大学院に所属し，図書館とは組織的に異なるので，ここでは言及しないので，この点ご諒承願いたい。

上述のような事情のもとに，図書館としても，早急に対策をこうじる必要もあり，昨年11月に，「図書館３階完成実行委員会」が設置され，鋭意検討が加えられ，工事については，昨年12月から仮設工事が始められ，本年３月中旬

には，大学院読書室が，４月末には，図書館の書庫等が完成される予定になっている。

つぎに，３階の概要について述べる。

大きくつぎの３つのコーナーに分けられる。

1. 東北コーナー
2. 西北コーナー
3. 東南コーナー

東北コーナーには，大学院読書室が設けられる。

西北コーナーは，一般書庫―１と貴重図書室が設けられる。貴重図書室は，西北コーナーの西北隅に設けられる。

東南コーナーには，一般書庫―２が設けられる。

大学院読書室へは，図書館東側にある教職員専用エレベーターを使用し，正面玄関からは，出入りできないことになっている。

大学院読書室と図書館の書庫との間は，壁面で間仕切りがなされていて，自由に出入りはできない。したがって，大学院生が図書館の書庫内のキャレルを利用するときは，改めて，図書館の正面玄関より入って，メインカウンターに申し出なければならないことになる。

一般書庫については，空調・冷暖房・換気・湿度等の調整，居住性等が充分に配慮されている。

一般書庫―１，―２併せて図書収容冊数は，約30万冊になる。キャレルは，21台設置されている。既設の地階書庫の収容冊数は，約30万冊のため，閉架式書庫の収容冊数は，地階・３階両書庫併せて，約60万冊ということになる。

したがって，図書出納請求の形態・出納の便利さ・新設エレベーターの動線等を充分配慮して閉架式図書の配置替えを全館的に行なう必要があり，一般書庫―２には，旧分類図書（昭和38年度以前に受け入れた図書），一般書庫―１には，新分類図書（昭和39年度以降に受け入れた図書），地階には，雑誌・新聞のバックナンバー等を配架する。

又，一般書庫―１には，エレベーターが新設され，メインフロアーの雑誌・参考図書室，２階のＡＶ室・特別閲覧室等との間に，新しい動線がつく。

貴重図書室は，一般書庫―１・―２とはちがって空調・冷暖房・換気・湿度等の調整，居住性は勿論のこと，防火・防虫・防塵等についても，特に配慮されている。一例をあげると，

ま柱は，木軸で，壁面には，プラスターボードを二重に張り，壁間に断熱材を使用し，仕上げは，壁面，天井，扉とも，ひのき張りとなっている。又，床面は，既設のメインフロアーと同じような長尺物が張られる。

照明についても，蛍光灯は，退色現象をおこすので，白熱灯を使用することも考えられたが，熱線の問題もあり，結局，図書保管上からも退色防止用蛍光ランプが使用されている。

貴重図書室の図書収容冊数は，約２万冊となっている。

ここには，図書館が所蔵している図書の中でも，貴重な図書がまとめられている。例えば，日本（和書）の場合，元和年間（1623年）まで，中国・朝鮮（漢籍・朝鮮本）の場合，明代嘉靖（1566年）まで，西洋（洋書）の場合，1700年代までにそれぞれ印刷された図書又は，これに準じる貴重な図書，特殊文庫として特に貴重なもの等が配架されている。

書架についても，スチール製書架に化粧合板が張られ，木製のもつ柔らかさと，暖かさを加えることが考えられている。

一般書庫をふくめて，家具・調度・備品等については，できるだけ既設のものと一貫性，共通性を持つように配慮されている。

３階未仕上げのまま，３年有余を経過したが，この間，当初の基本構想をまげることなく，３階を完成することができたことは，図書館の持つ諸種の機能をさらに充実発展させることとなり，誠に喜ばしい次第である。

参考文献：

1. 丸善№101ライブラリーニュース「同志社大学図書館の建築について」栗原嘉一郎
2. 1975年第16回建築業協会賞作品集「同志社大学図書館」
3. 同志社大学図書館報びぶりおてか№19「書庫の収納能力の現状」

人名関係調査資料(3)

前号に引続き日本の人名関係資料のうち，**各地方の人名を調べる資料**を紹介します。関係資料が非常に多いので，紙数の制約上，包括的で利用度の高いものに限定しました。

北海道

1. 開拓につくした人びと 全8巻及附録(年表・索引)

北海道総務部文書課編　北海道　1965-7　9冊（㊫211；K）

昭和43年の開道100年を記念し，北海道の開拓につくされた人々の功績を顕彰するために伝記を編集刊行したもの。108名収録。付録に50音順の人名索引がついている。

2. 開拓の群像　上・中・下

北海道総務部行政資料室編　北海道　1969　3冊（㊫211；H2A）

上記の「開拓につくした人びと」に続き，資料収集がむつかしいとされていた残り127名を収録したもの。

3. 北海道年鑑　昭和51年版

北海道新聞社　昭51（㊫059.1；H）

717～792頁に北海道人名録，その後に故人録を収録している。収録範囲は現在北海道で活躍している各界の主要人士および北海道出身の著名人。

青森県

4. 青森県人名大事典

東奥日報社　昭44　899P.（整理中）

史料編（1～705頁）と現代編（707～848頁）に分け巻末に索引・出典および歴代の知事，副知事，市町村長，議会正副議長を収録している。史料編は古代から現代までの物故者で郷土の功労者。現代編は現在活躍中の人物を収録。

5. 青森市史　別冊　人物編

青森市史編纂室編　青森市　昭30　370P.（㊫212.1；A〔S：1〕）

寛永元年青森開港以来現在にいたるまでの青森市の政治家，実業家，宗教家，教育家をとわず本市に功労のあった60余名を収録。人物の功績の紹介を主としている。肖像写真入り。

6. 東奥年鑑　1977

東奥日報社　昭51（㊫059.1；T）

503～975頁が名簿編となっており，官公庁，市町村，教育，各種団体，医療，金融，会社，新聞，放送，叙勲，褒章，故人録からなる。

秋田県

7. 秋田魁年鑑　1977年版

秋田魁新聞社　昭51（㊫059.1；A2）

職員録（257～644頁）と人名録（645～760頁）が収録されている。

8. 秋田人名大事典

秋田魁新報社　昭49　468P.（㊫281.03；A）

戦国期から現代までの物故者3,300人を収録。参考文献を附している。巻頭に五十音順による氏名総索引と巻末に付録として市町村別索引，各藩士，秋田藩家老，藩校教師と医学頭，県知事，国会議員，県会議長の各一覧および雅号索引が付してある。

岩手県

9. 岩手をつくる人々　近代篇　上・中・下巻

森嘉兵衛著　法政大学出版局　1974　3冊（㊫212.2；M3）

明治維新から大正期までの人々を収録，索引なし。

10. 岩手年鑑　昭和51年版

岩手日報社　昭50（㊫059.1；I）

425～628頁が名簿編で，機関，団体，主要会社，個人名簿からなり，個人名簿は人名録と故人録に分れている。

山形県

11. 山形県年鑑　1976年版

山形新聞社　昭51（㊫059.1；Y3）

733～900頁にわたって人名録が収録されている。

福島県

12. 福島民報年鑑　1951年版

福島民報社　昭50（㊫059.1；F）

官公庁要覧，公社公団事業団，団体要覧，会社要覧県内長者名，人名録を収録。

宮城県

13. 仙台市史　第1巻第3編　人物伝

仙台市　昭4（㊫919.1；S(1)）

413～1541頁にわたって，仙台の藩公夫人，側室，公子，公女，藩士，町役人，学者，文芸家，宗教家技芸家，武技家，政治家，官公吏，軍人，教育家，実業家，篤行家の略伝をかなりの頁をさいて収録している。巻頭に人物伝の詳細な目次がついている。

14. 河北年鑑　1976年版

河北新報社　昭50（㊐059.1；K2）

国会，内閣，中央官庁出先機関，公共企業体出先機関，政府機関，金融機関，自治体，学校，研究所，病院，医療施設，農林漁業団体，商工業，その他団体，会社，事業場などの名簿を収録。

栃 木 県

15. 栃木県史　全17巻

田代善吉編　臨川書店　1972（㊐213.2；T）

1933～42年下野史談会刊行の復刻版

第13巻　伝記編（563P.）

主として明治維新前の人物322名の事蹟を収録。

第16巻　皇族編　系図編（492P.）

系図編は栃木県で活躍した豪族又は文化の発展に貢献した者の系譜。

第17巻　墳墓編　総索引（232，232P.）

16. 栃木年鑑　1976年版

栃木新聞社　昭51（㊐059.1；T2）

254～542頁が名簿編で，皇室，職員録，主要会社要覧，人名録からなる。

埼 玉 県

17. 埼玉県史　全7巻

埼玉県　昭6～26（㊐213.1；S）

第5巻　江戸時代前期　第9章　人物(483～537P)

第6巻　江戸時代後期　第9章　人物(443～461P)

第7巻　近代　第13章　人物（593～645P）

18. 埼玉年鑑　1976年版　別冊　人名録・企業総覧

埼玉新聞社　1976　184P.（㊐059.1；S3）

人名録と企業総覧に分けて，それぞれ50音順に配列

東 京 都

19. 江東区史

東京都江東区役所　昭32（㊐919.2；T17—2）

第5編第4章人物伝（1426～1513P.），第5章墓碑（1514～1526P）を収録。人物伝は区内において文化関係に活躍した人，江東区内に生れた人，区内に墓を残す人，区内に居住した人でその業績，功労が大きい故人の略伝。墓碑は区内および区外（区内にあったものが区外に移転しているものおよび本区と関係縁故の深い人物の墓）にある有名人の墓碑を収録。

20. 中央区史　上・中・下巻

東京都中央区役所　昭33（㊐919.2；T28）

上巻第2編　近世第20章　人物(1357～1408)173名の町人巨商から工芸諸派まで職業別に著名人を収録。

21. 豊島区史

東京都豊島区役所　昭26（㊐919.2；T4）

第8編第3章　著名人の墳墓と土俗信仰の塚と塔(736～773P)区内にある81名の著名人の墳墓を収録

22. 神田文化史

中村薫著　神田史蹟研究会　昭10（㊐919.2；N）

本文中に，神田の先哲（1～136P），医家先哲遺珠(68～77)，巻末に神田文化史上の和儒蘭欧学の先哲医家，先賢，芸術家の墓蹟（19～24P）を収録。

23. 中野区史　下巻2

東京都中野区役所　昭29（㊐919.2；T15）

第12章第3節　墓地（176～241P）に区内の主な名墓を収録。

24. 港区史　上巻

東京都港区役所　昭35（㊐919.2；T26—2）

第2編　街史の終りの付4　神社・寺院・主要墓・諸教会に区内の主要な墓をあげている。

新 潟 県

25. 越佐人物誌　上・中・下巻

牧田利平編　三条市　野島出版　1972　3冊（㊐281.03；M2）

新潟県生まれの人，他県出身者で新潟県に来て影響を与えた人及び郷土の事件に関係のあった人物で，昭和46年5月までの物故者約6,500人を収録。下巻は諸表，諸家系図，諸系譜，職種別索引，地域別索引，号別索引，主要参考文献からなる。

26. 佐渡人物志

萩野由之著　佐渡郡教育会　昭2　345P.（㊐982；H27）

美術，良史，漢学，医術，数学，音韻学，蘭学及地理学，神道及歌文，連歌及俳諧，書画，産業及技芸，義侠，沙門，女流，雑学の15部門に分け，慶長から大正期の佐渡における人物数百名の伝記を収録。

27. 佐渡郷土辞典

本間周敬著　芸苑社　昭25（㊐919.3；H2）

凡例に「人物伝は詩歌，連俳，書画，配流に関するものを制限し，産業，技術，厚生方面の資料を成るべく多く採入れた」，「孝子節婦及び明治以後の人物は調査不充分のため記載し得なかったものが多い」とある。

28. 新潟県年鑑　1976年版

新潟日報社　昭50（㊐059.1；N3）

職員録（488～551P.），人名録（552～669P.），故人録（570P.），会社要覧（671～769P.）からなる名簿編を収録している。

山 梨 県

29. 山日年鑑　昭和47年度版

山梨日日新聞社　昭47（整理中）

人名録（302～392P）は役職員と第一線のひとびとからなっている。

長 野 県

30. 信毎年鑑　昭和51年度版

信濃毎日新聞社　昭50（㊫059.1；S4）

職員録，事業所要覧，人名録からなる名簿編(271～584P.）を収録している。入名録は県内在住者，県出身者および長野県に関係の深い著名人を収録。

静 岡 県

31. 静岡県人物志　復刻

静岡県編　臨川書店　昭49　24，536，37，21P.（㊫281.03；S3）

1924年刊行の復刻。静岡県出身者だけでなく，他府県出身で事業を静岡県でしたもの，および一生の経歴中県に関係あるものなども含め，655人の物故者を収録したもの。巻末に索引および人物年代表がついている。

32. 静岡県誌　上・下巻

静岡県誌編纂所　昭9　1冊（㊫919.3；S2）

下巻　人物編は先哲遺蹟（1～28P.）と現代人物事蹟（1～374P.）に分けて収録。

33. 静岡年鑑　51年度版別冊　静岡県人名録

静岡新聞社　昭51　184P.（㊫059.1；S5）

静岡県下の政治，経済産業をはじめとする各界の人物と官公庁，諸団体の名簿を収録したもの。

愛 知 県

34. 新編愛知県偉人伝

愛知県教育会，愛知一師偉人文庫共編　川瀬書店　昭9　488P.（㊫982；A11）

県出身の著名人，ならびに県に顕著な事蹟を残した人360余名の伝記を収録。勤王家・志士，政治家・武家，学者・教育家，宗教家，篤行，事業家，文芸家，芸術家の8部門に区分している。

35. 名古屋市史　人物編第1～2

名古屋市役所編　川瀬書店　昭9　2冊（㊫919.3；N〔10-11〕）

名古屋市が生んだ古今の主要人物を各部門からひろく収めたもので，名古屋市史本編中にあらわれた人物1,115名の伝記。第二の巻末に50音順の人名索引がついている。

三 重 県

36. 三重先賢伝

浅野松洞著　玄玄社　昭6　302P（㊫982；A14）

534名の伝記を収録。

近畿地方

37. 関西業界人物大観　第1集

帝国興信所　大正15　468，362P.（㊫982；T17）

上篇　関西業界人物大観（75名収録），下篇　名士首実検（65名収録）からなり，写真入り。

38. 関西人事録

中央探偵社　昭31，750，46P.（㊫982；T45）

現在関西二府四県に在住し，各界第一線に活躍している人約5万人から厳選したもの。人名索引がついている。

滋 賀 県

39. 近江人要覧　増補改訂第2版

近江人協会　昭9　583P.（㊫982；011—1a）

先に刊行された第1，2輯の増補改訂版で，第1版に収録された人々に実際照会状を出して正し，通信のないものは前版のまま，年令のみを訂正して掲載。約3,000名を収録。顔写真入りで，略歴，活動，職業，住所などを記載。

40. 滋賀年鑑　1976年版

滋賀日日新聞社　昭50（㊫059.1；S）

人事職員編（327～419P.），会社工場編（425～512P），人名録（535～604P.）なども収録している。

京 都 府

41. 平安名家墓所一覧（㊫982；Y7）前号参照

42. 続平安名家墓所一覧（㊫982；Y7）前号参照

43. 京都名家墳墓録　上・下巻（㊫982；T2）前号参照

44. 丹波人物志

松井挙堂著　「丹波人物志」「増訂丹波史年表」刊行会　昭35　412P.（㊫982；M37）

丹波に関係ある人物578名を大和時代から明治以降まで収録したもの。昭和12年刊行の同著者の「丹波史年表」の姉妹篇ともいうべきもの。

45. 丹波及丹波人

丹波青年社編・刊　昭6（㊫919.4；T）

第3編　人物略伝（1～789P.）丹波出身の学者，軍人，政治家，教育家その他あらゆる層の国家，社会に貢献した現存人を含む人物数百人の略伝。2頁3人の割で掲載し，顔写真もある。なお「人物略伝後記」に，この略伝に列記しなかった人物も挙げている。配列は郡別で，その中はイロハ順。

46. 京都年鑑　昭和50年版

夕刊京都新聞社　昭49（㊫059.16；K）

官庁団体名簿，会社銀行要覧，人名録(565～718P）からなる名簿編を収録している。人名録は昭和49年9月1日現在京都府内在住者および京都で活躍している各界著名人を50音順に配列したもの。最後の頁には昭和48年9月～49年8月の物故者を収録している。

大 阪 府

47. 浪華人物誌　巻1—4（芸苑叢書）

岡本撫山著　風俗絵巻図書刊行会　大正8　4冊

（㊢982；09）
数百名の略伝を収録。

48. 大阪財界人物史

国勢協会　大正14　96，718P.（㊢982；K8）
第1編　財界史，第2編　人物史（1～718P.）からなる。人物史は大阪財界における各方面の中心的人物273名を収録。イロハ順配列。

49. 大阪人物誌―大阪を築いた人々―（アテネ新書103）

宮本又次著　弘文堂　昭35　230P.（㊢982；M36）
大阪の経済発展を上から育てあげた為政者や，大阪の土木に寄与した人や明治以後の実業家ら12人を選んでその伝記と功績を顕賞したもの。

50. 大阪新人物誌

夕刊大阪新聞社，日本工業新聞社　昭9　375P.（㊢982；Y5）
昭和9年の時点で大阪で活躍している各方面（軍部，実業，官公吏，教育者，婦人など）の新人物766名を収録している。記述は生年月日，職業，住所，活動，家庭，趣味などで，人物の顔写真がついている。

51. 大阪府年鑑　昭和51年版

新大阪新聞社　昭51（㊥059.1；02）
名簿編としてまとめる形式をとらず，特定項目の下でだけ掲載している。

52. 堺文化史伝

中村直勝著　堺市教育委員会　昭46（㊥216.3；N）
第4章　人物誌（236～298P.）代表的な堺住民に焦点をしぼっている。51名収録。

53. 堺市史　全8巻　復刻版

堺市役所編　清文堂　昭41（㊥216.3；S）
昭和5年刊行の復刻版。第7巻別編第1編　人物誌。古来堺に生まれ，又は他地方から来て功績のあった人物を網羅したもので，黎明，全盛，爛熟，整頓の4期に分け，皇族から武将，僧侶，篤行家など各界の諸家別に554名の人物の事蹟を収録。

兵庫県

54. 神戸市史　別録1

神戸市役所　大正11（㊥216.4；K2）
巻末（1～68P.）に近世人物列伝がついている。42名収録。

奈良県

55. 大和人物志　訂正再版

奈良県庁　明42　32，774，50，16P.（㊢982；N17）
大和国で，平安遷都以降から維新前後に功績のあった人までを収録。巻末に人物年表がついている。

56. 奈良県年鑑　1976年版

奈良新聞社　昭50（㊥059.1；N2）
職員録，会社，組合，著名人，人名録，長者番付等も収録している。

和歌山県

57. 和歌山県誌　全3巻

和歌山県編　名著出版　昭45（㊥216.6；W(3)）
第3巻　第5篇　人物誌（568～871P.）。中世以前の人物，藩政時代の人物，明治時代の人物，伝奇中の人物の4編に分け，各界の県人物の略伝を収録している。

岡山県

58. 備作人名大辞典

田中誠一編著　臨川書店　昭49　2冊（㊥281.03；B）
昭和12～14年備作人名大辞典刊行会刊行の復刻版。岡山県の人物伝を集成したもの。乾巻の巻頭はイロハ順の人物名索引，坤巻の巻末に備作歴史年表がついている。

59. 岡山市史　全6巻

岡山市役所　昭11～13（㊢919.5；O）
第5巻第5編第6章　人物（3694～3909P.）多くは肖像写真がついている。

60. 山陽年鑑　1976年版

山陽新聞社　昭50（㊥059.1；S6）
213～534頁に名簿としてまとめ，皇室，国会議員，政党役員，岡山県議会議員，市会議員，町村会議員，中央主要官公庁，中央出先官公庁，岡山県主要職員，香川県主要職員，市町村職員，学校関係一覧，各種団体一覧，岡山県会社・工場要覧，岡山県出身人名鑑の順に分けている。

広島県

61. 広島県人名事典

歴史図書社　昭51　2冊（㊥281.03；H）
本巻（612P.）は大正14年刊行の「芸備先哲伝」の復刻改題したもので864名の著名人を収録。各人物について文献の出典を明示しているのが特色。別冊附録（158P.）は昭和18年に刊行された「広島県先賢伝」の復刻で，主として明治以降に活躍した各界の人物400余名の経歴，業績を記述したもの。政治家伝，教育家伝，新聞記者伝等の職種別に分け，その中を50音順に配列している。

62. 中国年鑑　1976年版

中国新聞社　昭50（㊥059.1；C）
321～695頁に名簿としてまとめ，皇室，内閣，国会，官庁，公社，公団，事業団，，県庁，市役所，商工会議所，各種団体，学校，会社，人名録，故人

の順に分けている。

山 口 県

63. 増補防長人物誌

近藤靖石編　防長史談会　昭8　336，13P.（㊢982；K28）

国造，国司・国守，介，郡領，郡司，六国史中所見，大内家，毛利家，重臣，能吏，武術，国学，儒学，歌人，詩人，書家，画人，方伎，鍛冶，鑿工，陶工，雑，復讎，靖献事蹟に区分して収録。巻末に50音順の人名索引がついている。

四国地方

64. 四国年鑑　1976

高知新聞社　昭50（㊫059.1；S2）

444〜1075頁に人名関係としてまとめ，高知県議会議員，同市会議員，高知県の発展に貢献する人々，大学，学校関係の名簿，会社，商社，医療，報道関係名簿，四国人名録，四国関係故人名簿に分けている。

徳 島 県

65. 阿波名家墓所記

松浦徳次郎編刊　大正8　38丁（㊢982；M16）

阿波の先人で，文学技芸，其他特殊な事蹟を遺して世に伝わるものを採録したもの。

香 川 県

66. 香川県史　復刻版

名著出版　昭51（整理中）

第2篇第2項　人物（7〜84P.）

勤王，学士，高僧，孝子，烈女，名士，循吏，武勇，良工に分けて109名の伝記を収録。

高 知 県

67. 高知県人名事典

高知県人名事典編集委員会編　高知市民図書館　昭46　422，32，2P.（㊫281.03；K）

1970年12月31日までの物故者を収録。写真入り。巻末に明治初期重臣，国司，大臣，主要公職者，国会議員，県市議会議長，旧華族，各賞受賞者などを収録。

68. 高知県史　上・下巻

高知県史編纂会編・刊　昭26（㊢919.5；K3）

下巻第8章に土佐の人物列伝（569〜647P.）を収録。土佐で活躍した古今の人物の略伝を50音順に配列。

福 岡 県

69. 福岡県碑誌　筑前之部

荒井周夫編　大道学館出版部　昭4　1128，13P.（㊢982；A6）

勤王，戦役，忠勇，孝節，篤学垂帷，杏林橘井，済世利民，治水土木，商工産業，社寺，古蹟名勝，雑纂，附録の13篇に分けて収録。巻末にいろは順の人名索引がついている。

70. 福岡県史資料　別輯

伊東尾四郎編　名著出版　1973（㊫219.1；I(s)）

福岡県史料叢書第1〜10輯を合本して復刻したもの。この中に伝記資料として次のものを収録している。伝記書類概論，農耕者伝その1〜2，水利土功者伝，算学者概伝，洋学者概伝，北豊人物誌，柳河人物誌，秋月藩人物誌，久留米藩人物誌，福岡藩文学者概伝。

長 崎 県

71. 長崎市史　地誌編　名勝旧蹟部

長崎市役所　昭12（㊢919.6；N）

第3章　旧蹟10　人物遺趾及墓銘（859〜926P.）

熊 本 県

72. 熊本県史　全8巻

熊本県　昭36〜40（㊫219.4；K）

近代編第1（天保年間〜明22）第13章　人物(775〜811P.)。政治，経済，文化関係に分けて115名を収録。

近代編第2（明23〜大正3）第13章　人物（721〜758P.）130余名を収録。

近代編第3（大正4〜昭6）第14章　人物（553〜565P.）41名を収録。

近代編第4（昭7〜終戦）第14章　人物（553〜565P.）38名を収録。

現代編（終戦後〜）第14章　人物（745〜802P.）文化功労者として顕彰または表彰された183名を収録。

73. 熊本年鑑　1977（第30巻）

熊本年鑑社　昭52（㊫059.1；K4）

第1部総記篇の中に熊本県人名録（29〜47P.）と第2部熊本県綜合職員録（1〜119P.）が収録されている。

大 分 県

74. 大分県人物志

大分県教育会編　歴史図書社　昭51　804P.（㊫281.03；O）

明治40年に刊行した「大分県偉人伝」を大巾に改訂した昭和3年版の改題復刻版。江戸時代以降明治40年までの郷土を代表する256名の人物伝を詳述したもの。配列は経世，学術教育，勤王，義人志士，武術兵学，軍人，官海，実業工務，医術，緇流，画壇，文芸音楽，公共興業，篤行に分け，その中を50音順に配列。

75. 大分市史　上・下巻

大市史編纂審議会編　大分市役所　昭30〜31（㊢

919.6；O4）
下巻の人物志（731〜824P.）に45名の伝記を収録。

鹿児島県

76. 鹿児島県史　全6巻

鹿児島県　昭14〜42（㊫219.7；K）
別巻に補任表（国司表，守護表，薩摩藩主，鹿児島藩知事，鹿児島県長官，県会議長并副議長，鹿児島県々官，県会議員，鹿児島県選出貴族院多額納税者議員，鹿児島県選出衆議院議員）と諸氏系図を収録している。

77. 鹿児島年鑑　1976

南日本新聞社　昭51（㊫059.1；K3）
名簿編（543〜716P.）として，職員録，各種団体，県外知名士，事業所要覧を収録。

沖縄県

78. 大典記念沖縄人事興信録

秦蔵吉編　大典記念沖縄県人事興信録編纂所　昭4
667P.（㊫982；O8）
昭和3年の時点で，沖縄で活躍中の人物約800人を収録。原籍，寄留，職業，趣味，著作，家庭状況などについて記述。顔写真入り。

79. 琉球総覧　1968

琉球行政学会　1968（㊫059.1；R）
名簿編（396〜547P.）として皇室，職員録，学校一覧，人名録，団体，労働組合，会社要覧，本土在住者を収録。

図書館から

外国所蔵文献の利用について（紹介）

従来，国内諸機関以外に所蔵する文献の利用には，国立国会図書館の Lending System を窓口にしておりましたが，この度 British Council を窓口にした国際的 Lending System が国際的文献の相互利用を計るために実施されることになりました。下記にその概要を紹介いたします。

また，申込用紙を閲覧課第二閲覧係（Tel. 3981）に備えておりますので，ご利用下さい。

記

1. 文献利用の範囲

(1) 図書，雑誌　約250万冊
(2) マイクロフィルム　約200万
(3) 年間75,000タイトルの単行本及び雑誌の購入
(4) British Museum 100万冊の単行本及び雑誌20万冊
(5) ヨーロッパ主要大学20校の図書館蔵書
(6) 政府刊行物
(7) Request 文献中非所蔵のものは購入する
(8) 国籍・国語を問わない

2. 文献利用の内容

(1) 単行本の貸出及び複写
(2) 雑誌及び政府刊行物の複写
　(a) 普通紙のハードコピー
　(b) 複写感光紙のハードコピー
　(c) 35㎜，16㎜のマイクロネガ，ポジ及び各種規格のマイクロフィッシュネガ，ポジ
(3) 申し込みより入手までの期間
　約15日（ただし Reference を要するものは別）
(4) 料　金
　サービス・クーポン券によって処理される（送料も含む）
　(a) 単行本の貸出しの場合　1冊　2,000円
　(b) ゼロックスフォートコピー　10頁　825円（10頁単位）
　(c) マイクロフィッシュ　1枚　825円
　(d) ロールフィルム　20駒　825円
　(e) 頁数不明の場合は，クーポン券1枚（825円）を申し込み時に貼付することにより，後日不足分を精算する。
(5) 申し込み方法
　(a) 所定の申し込み用紙に必要事項を記入する。
　(b) サービス・クーポン券（料金）を申し込み用紙に貼付する
　(c) 窓口は，British Council Kyoto（英国文化センター）
　　左京区北白川西町77　Tel.（791）7151
　(d) サービス・クーポン券は10枚綴で，英国文化センターにある。　以上

1976年度の主な館活動記録

常時ウィーディング体制・要項を決定	4月
二次文献資料の整備・補完の推進	〃
教員出版図書の寄贈協力を依頼	〃
私大図書館協会・京都地区協議会幹事校	5月
学内，図書業務研修会（第2回）を開催	6月
ＡＶ室改修工事，模様替えと整備・充実	〃
利用の多い雑誌の複本化を決定	〃
業務マニアル作成の検討を始める	7月
荒木英学文庫の別置を決定（特殊文庫）	〃
図書に挿入された月報の取扱い要領決定	〃
図書移管手続内規・同事務要領を制定	9月
本学学生，図書館司書課程実習実施，42名	〃
貴重図書室，貴重書の再点検，中間報告	9月
関西四大学，図書館職員研修会発足	〃
父兄会文庫，ウィーディング図書の処理	10月
登録する図書の価格について改正・実施	〃
図書館3階完成実行委員会を編成	〃
上智大学図書館，河崎美智子研修員受入	11月
3階書庫完成後の図書配置移転委員会を編成	〃
図書資料収集方針成文化委員会，中間報告	12月
図書館3階完成実行委員会，中間報告	2月
ケーリ文庫（特殊文庫），約1,100冊整理完了	3月
同和教育委員会資料の宗教部からの移管決定	〃
大学院読書室，本館3階東北部分に完成	〃

1976年度の主な寄贈図書

1. カナダ政府寄贈図書

The Canadian Economy—Structure and Development—

Ian M. Drummond 1972 他　計124冊

これは，同志社大学通信№20で既報の通り，本学特別講師 Toyomasa Fuse 教授（ヨーク大学教授）のご尽力により二回に亘り，日加の相互理解を深めるために寄贈をいただいているもので，今後も引続く予定であり，いずれ，本誌臨時号で4月下旬，図書目録の公表と図書を新刊書棚に展示する予定である。

2. 韓国同志社同窓会寄贈図書

同志社創立百周年記念事業宛第1次寄贈図書を本館が受入れたものである。「韓国美術全集」15巻他3叢書　計33冊

3. 渡辺安太郎氏（本学学生部職員）寄贈図書

氏の60才の誕生日を記念して，本館に金10万円に相当する図書寄贈の申し出を受け，検討の結果「奥田家文書」全15巻のご寄贈をいただいた。

同志社大学図書館のみなさま

上智大学図書館　河崎美智子

上智大学図書館閲覧係長河崎美智子さんが，大学の特別研修員として本学に来られたのは，去年11月でした。目的は新図書館建設の予定のとき，図書館業務の検討を進める中で，特に閲覧・参考業務全般についての本学事情を1ヶ月にわたって調査することでありました。この度，その時の感想を一文寄せていただきました。これを契機にこういった形での館員交流がなされることを願いつつ紹介致します。

このたび，わたくしの勤める上智大学で設けられた職員の特別研修制度により，新図書館建設を予定されている館員として，優れた他大学の図書館での研修が許されました。そして同志社大学図書館では，わたくしの担当業務である閲覧課での実習をこころよくお引きうけ下さいました。はじめて新しい図書館を見学させていただいたのは，三年前の春でした。キャンパス内の他の建物とよく調和のとれた，美しい煉瓦造りは，ご案内いただいた内部の優れた機能と，変化にとんだいくつかの閲覧室と共に忘れられないものでした。新館建設に，全館員の意見が直接的に反映されるまでのご努力や，開館以来急速にのびた利用者への対応策のご苦労など，その後も機会のあるたびに図書館関係の資料を通じて拝見させていただきました。また私大図書館協会の会などで前川課長の興味深いお話しもうかがわせていただきました。そして今回は，館員のみなさまの活気あるお仕事ぶりを拝見できた上に，いろいろお教えいただくことが出来ました。わたくもどもの仕事場では，ようやく業務分析に取り組みはじめたところです。充分に話し合いの上での業務態勢で出発なさった，新館での三年がすぎた今，更に次のステップをと改めてふり返っていらっしゃるみなさま方を拝見してうらやましく思いました。さらにまた，利用者優先と同時に，そのサービスをするためにも，職員の労働条件を真剣にお考えになる方針もうらやましいものでした。積極的なサービスをするためには，最低限の人員の確保が必要です。でも限られた人員で出来ることしか考えられない現状をもどかしく思います。忙しい日常業務の他に，いろいろのプロジェクトチームを作って，現状の手直しや新しい計画におはげみのみなさま方のお仕事ぶりは，わたくしどもも是非学ばせていただかなくてはと思いました。

同志社大学図書館の歴史(その12)

太平洋戦争末期から戦後へ

第4代館長(総長兼任) 湯浅八郎

1941(昭和16)年12月8日の太平洋戦争の開戦につづく1943(昭和18)年12月の学徒出陣は大学から文科系学生の殆んどを奪い，これがため私立大学は存亡の竿頭にたたされるに至ったのである。そして，一方では1930年代からはじまった，わが国の軍国主義・全体主義化は遂に，その頂点に達し，思想統制の一環として図書の発禁・押収が盛んとなって，大学が学問研究の必要から永年にわたって集収してきた自由主義・社会主義関係の図書の官憲による強制押収が強力に進められるに至った。多くの大学や図書館は執拗な要求のために，それらの図書を提出せしめられたが，当館は官憲の要求を最後まで拒否しつづけ，貴重な資料を今日に伝え得たことは当時の当事者の功績として讃えられなければならないであろう。

また，戦争末期の1945(昭和20)年初頭からの，わが国全土にわたった空襲による戦災は尊い多くの人命を奪ったとともに貴重な多くの文化財をも灰燼に帰した。このような空襲から京都が免れた事情については最近，オーティス・ケリー文学部教授が明らかにされた (Otis Cary : Mr. Stimson's 'Pet City' — the sparing of Kyoto, 1945〔爆撃を免れた京都—歴史への証言〕同志社アーモスト館，1975.2)が，そのために京都の多くの文化遺産とともに本学蔵書が完全に残されたことは慶ばしいことである。

なお，明治期の波理須理化学校廃校以来，同志社の理科専門教育は絶えて久しかったが1944(昭和19)年4月，同志社工業専門学校として再生，これが1949(昭和24)年4月，新制度の工学部として再発足したのである。工業専門学校開設当時から戦後にかけて，その蔵書の収集・整理・管理は当館に委任され，図書館(現在の啓明館)3階の別室に保管されて出納式で利用に供せられたのであった。このような事情もあって，これらの図書に対する目録・分類は当初から図書館の蔵書と同じ分類表によって分類され，目録も混排されていて全学統一の魁となったのである。

1945(昭和20)年8月15日，不幸としかいいようのない太平洋戦争は，わが国の無条件降服で終結し，連合国の占領下に全面的な改革が進められることとなるのである。そして1946(昭和21)年11月には『日本国憲法』が翌年3月には『教育基本法』『学校教育法』が，それぞれ公布されて戦後教育の基礎が固められた。これに伴って新制大学の発足が急がれ，本学も1948(昭和23)年4月，神，文，法，経の4学部を，翌年4月には商，工の2学部を発足させた。大学基準協会も新制大学における図書館の重要性に着目して『大学図書館基準』の設定を計画したが，その制定は1952(昭和27)年へとずれ込んだのである。そして本学に於いても戦後の強烈なインフレ進行のなかで図書館の復興・拡充が進められることとなるのである。

戦中戦後の混乱の時期の館長には前号に記した牧野虎次総長が1947(昭和22)年4月に退任のあとを湯浅八郎総長が兼任することとなり，館員の主なるものには沢田勇次郎・小野則秋・小畑渉・兵働竹酔・花房照登・山田宥應などが在職，定員としては館長以下12名であったが，戦争末期には兵役などのため実人員は相当欠員を生じていたのであった。このような戦中戦後の時期の1941(昭和16)年〝学生と図書館の会〟を月1回開催し，学生と図書館のコミニケーションを計ることに努め，また図書館員の研修を目的として〝図書館学研究会〟を開催し，図書館学に関する講演会や研究発表会を実施し，さらに，この研究会を母体として戦後いち早く1946(昭和21)年を第1回として〝同志社大学図書館学講習所〟を開設したことは，わが国の図書館学教育史上，特筆されることともなっているのであり，本学の〝図書館司書課程〟は，それを淵源としているとされるであろう。

実例を中心とした
資料のさがしかた —11—
—— 主題からさがす例 ——

はじめに

図書館に所蔵されている図書資料を探す方法で，先ず探そうとする内容が，どのような主題（学問分野・件名）に属するものであるかを，あらかじめ見きわめて探す場合があります。このような場合目録コーナーには「分類目録」(Clasified Catalog）と「件名目録」(Subject Catalog)〔旧目録〕，という目録があります。

分類目録は，図書資料を書架に配列するときの順序を決定する要素にもなりますが，本来，図書資料を一定主題によって体系的に集める目的で，即ち主題による分類名辞（符牒）を数字によって系列化し，順序を分類記号によって決定し，配列した目録です。

件名目録は，図書資料の中に含まれる主題・トピックスなど，その名辞（概念を言葉で表示）のアルファベット順にした索引（カード式リスト）です。

分類記号は，始めから利用者にとっては，なじめないと思いますが，名辞から分類記号にたどれるための「新分類相関索引」という索引が目録コーナーに備え付けられています。この索引は，日本十進分類法（ＮＤＣ）の表に出ている項目をアルファベット順に挙げ，分類記号を示した便利なものです。

主題から探す実例

【質問例１】

分類記号の〔914.6〕が〝日本文学の近代随筆〟になっているが，どんな相互意味をもっているか。

＜解　説＞

図書資料の分類は，十進法，即ち「０」と「１から９」までの数字によって，十進的に構成された分類法＝日本十進分類法＝によっております。〔914〕という分類を読むとき（きゅうひゃくじゅうよん）ではなく，（きゅう・いち・よん）と読んでください。この場合の１桁目の９は「類」の「文学」を意味し，２桁目の１は「綱」で，国語区分「日本」を意味し，３桁目の４は「目」で，文学の形式「評論・随筆・小品」を意味します。更にコンマ以下を展開して「細目」の６は時代を区分して「近代・明治以後」を示すのです。従って〔914.6〕は，日本文学の近代随筆（文学＋日本＋随筆＋近代）というように分類記号が与えられています。

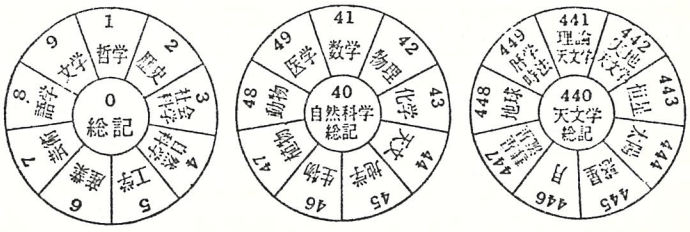
【質問例２】

特定の主題をもつ新聞学が，なぜ１から９に含まれないで総記の「０」になるのかわからない。分類の展開について簡単に知りたい。

＜解　説＞

質問の内容は２点です。はじめの質問は，１から９までの主題に入れられない，各分野にまたがるものは総記に入れています。新聞学以外にも図書館学・博物館学・書誌学など，明らかに特定主題ですが，これらはインフォメーション全般に関係する分野と考えて総記に含まれているのです。

次に「ＮＤＣ」の展開についてですが，類・綱・目と，１桁から３桁へと展開されている例を次の図によって説明します。



第１区分が「類」で９つの区分がなされています。０の総記と合わせて10区分です。第２区分の「綱」は，40を自然科学総記，41を数学、42を物理……となって，10の類がそれぞれ更に10に展開されて，100区分となり，第３区分の「目」は，各綱が更に10区分されて1000区分の目となっています。類から綱，綱から目と順次分類表は展開されているのです。詳しくは〔014.4〕の分類個所には，図書の分類法と記号法に関する文献がありますから調べてください。

【ある学生の会話】

A君：分類目録を１枚１枚めくって図書を探すより，開架図書室に直接行って必要と思われるのを探すのが早いし，僕には開架図書室の書物は目録が必要ない。

B君：僕の読みたい本は大体，著者がわかり，書名ぐらいはわかるので分類目録は使ったことはない。分類目録は図書館の人が必要なんだ！

C君：僕はちがう。同志社に入学して教師から「宗教教育云々」とよく聞かされるので，図書館に入ってカウンターの人に「宗教教育」の関係書がどこにあるかを直接聞いたら，カウンターの人は「目録を調べなさい。その主題なら新分類は〔371.6〕，旧分類は〔357〕だ！」と教えられたので，先に新分類目録を見たら読みたいようなカード３枚程，次に旧分類目録を見たら，すごくあった。卒論のテーマーにこの主題を決めたら資料には不足ないと思った。

＜解　説＞

A君の場合，今ここで，すぐ見たいとき，目録を検索する時間もなく，又ある筈と知っても他の利用者に貸出されていては要をなさない場合もあることは理解されます。然し図書館資料の利用は，そんな場合のみではないと思います。所蔵資料は常に利用され，特に開架図書室の図書は頻繁に利用されて配列位置のみだれもあります。あらかじめ自分が必要とする内容の図書がどれくらいあるかを把握した上で開架図書を探すのと，そうでなく，直接探す場合とでは，利用出来る効率に可成の異りがあります。後者の場合に見られる現象に注意しなければならないことは，たまたま試験期に図書館を利用して，自分に必要な図書が他の利用者に貸出されているので，勝手に図書館に行っても必要な図書はないと判断して利用も遠のく原因になることです。あらかじめ余裕をもって，図書館所蔵資料中，自分の必要な図書資料を分類目録で確認し，有効な図書館の利用に心がけてください。

B君の場合，自分が必要とする図書のすべてが，著者，書名がわかっている場合には分類目録によって検索する必要はなく，書名目録・著者目録で十分です。著者も書名もわからないが，特定主題の図書を探す場合，特定主題に関する所蔵資料群を把握するのに必要なのが分類目録です。分類目録は図書館員のために必要な目録ではなく，この図書館を利用するために，利用者と図書館員に必要な目録です。

C君の場合，求める主題を「宗教教育」と定めて新旧分類目録を検索したところ，卒論作成のためにも資料の量的安堵を見て，テーマーも決められるのに大きな手がかりをこの目録が果した例として注目されます。この目録も分類そのものに限界があります。人為的に十進法により規定し，系列化されたものであり，時代の進展・学問の進歩，或は所蔵資料の量的面で改訂・改正の必要が生じます。本学図書館でも，旧分類，新分類といった二本立てになっているのも，そのような理由からです。

旧目録には「件名目録」があります。“Shūkyō　kyōiku,, の項目をひきますと，単行本はもとより，全集・双書の中に含まれている主題が把握できます。又キリスト教教育の場合には，〝教会学校〟といった件名も立てられ，関係資料群が集められています。このように主題から調べる場合のカード目録の検索には，分類目録・件名目録を相関的に活用ください。更に本学に所蔵しない図書資料の利用も必要になると思われます。そのような場合は係員によく相談してください。

【質問例４】

戦後の日本家族法について研究するのですが，本学図書館所蔵文献と，関係図書の出版状況が知りたい。

＜解　説＞

※　質問は民法上での家族に関する文献を検索することで，分類記号は新分類〔324.6〕の個所が親族法（家族法），身分法に関する文献が集められ〔324.7〕相続法・相続制度，〔324.87〕の戸籍法も関係する分類記号です。又旧分類は〔453.5〕親族法，〔453.6〕相続法です。旧目録には件名目録がありますから“Kazokuhō,, でひくと，相続法・親族法・戸籍法という件名項目のもとに関係文献が集められていることがわかります。旧分類目録の場合には，単行本の中，或は全集・双書の中に含まれる複数の主題を副出（複主題を目録中に挿入）しておりますから１冊の単行本でも十二分に完用できます。

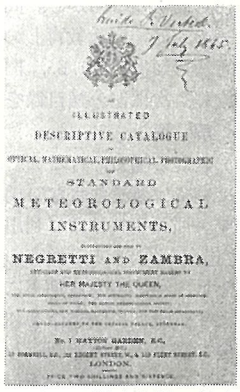
※　次に本学図書館に所蔵していない図書資料があります。そのような文献を調べる場合，総記の書誌〔028〕という分類個所があり，専門分野を更に展開して〔028.324〕が家族法関係書誌です。ここには太田武男編〝家族法文献集成―戦後家族法学の歩み―〟〝家族法判例・文献集成―戦後家族法の歩み―〟という書誌があります。更に家族問に関題する総合的文献については，社会学の分野〔028.367〕には，太田武男編〝家族問題文献集成―戦後家族問題研究の歩み―〟といった書誌があります。

※　雑誌論文については，〝雑誌記事索引―人文・社会編―累積索引シリーズⅡ法律，シリーズⅤ社会〟〔P027：Z3〕の主題索引によって調べてください。

※　一般の出版物に関する目録，全国書誌の分類個所〔025〕，日本の場合〔025.1〕には，国立国会図書館編集〝全日本出版物総目録〟があります。この目録は国立国会図書館に納本された図書資料を年度毎に収録しているものです。又出版ニュース社の編集する〝出版年鑑〟の内容で第２編図書目録には年毎の出版図書をＮＤＣの順序によって収録しています。

ピックアップ

フルベッキの署名本について


Guido F. Verbeck
7 July 1865

ILLUSTRATED
DESCRIPTIVE CATALOGUE
OF
STANDARD
METEOROLOGICAL
INSTRUMENTS,
NEGRETTI AND ZAMBRA,
HER MAJESTY THE QUEEN,
No. 1 HATTON GARDEN, E.C.
LONDON.

今回は明治政府お雇い外国人第一号であったフルベッキ（アメリカ読み・バーベック）の署名本を紹介します。署名は写真が示すように「Guido F. Verbeck 7 July1865」とあり表紙と表題紙の二ケ所に同じ署名がある。1865年といえば慶応元年である。即ちこの本はフルベッキが幕府時代長崎に於て署名した本である。

フルベッキは1830年オランダのザイストに生れ，ユトレヒトの工業学校を卒業し，米国に渡り土木技師になった。在米中に大病になり，その影響で一生を神に奉仕する決心をしてオーバン神学校に入学した。神学校卒業後米国プロテスタントのオランダ改革派の日本派遣宣教師に応募し1859年長崎にやって来た。（日本開港後一番早くやって来た宣教師六人の内の一人）長崎では幕府直轄の語学校「済美館」や佐賀藩校の「致遠館」で教師として多くの青年を指導した。済美館には岩倉具視の子息や小松帯刀等がおり，致遠館では大隈重信や副島種臣等がフルベッキから米国憲法，英国憲政史や，国際公法等を学んだという。明治になって東京に招かれ，明治２年大学南校の教師になり，さらに太政官の法律顧門，後に元老院の顧門となった。明治11年彼本来の任務と考えていたキリスト教の伝道に従事したいと願い出て，11年８月政府雇入が解除になった。以後布教や伝道に従事した。その後明治学院大学の前身である東京一致学校の教師となり，聖書の翻訳等に活躍した。明治31年３月（1898年）68才の時東京で亡くなり，死後門弟らにより青山外人墓地に大理石の墓碑が立てられた。

以上に述べたようにこの本は署名の年月日からフルベッキが長崎で多くの青年に洋学を教授していた時英国からとり寄せた本であろう。

何の目的で購入したのであろうか？　土木技師としての技量が各藩に認められていたので器具，器材の購入斡旋用カタログとして購入したのか，或いは教授用の一冊として購入したのが不明である。彼は多くの図書の購入を斡旋したといわれる。その内の一冊で彼が署名して渡したという人もある。何れにしても徳川末期の英国に於ける器具，器材の現状が一目でわかる綜合カタログとして珍らしいものである。

内容は光学，数学，哲学，写真術，及び気象器具に関する図解説明付綜合カタログで総頁306頁，大きさ縦25cm，横15cmである。国内価格と海外価格の二通りが記載されている。発行所の NEGRETTI AND ZAMBRA はエリザベス女王御用達店であり王室天文台，海軍省，陸軍省，商務省，グリニッチ気象台他世界各地の天文台，気象台に商品を納入している店である。発行年は明記されていないが1863年～1864年ごろであろう。なお British Meduam の General Catalogue of Printed Books（同志社大学図書館所蔵）の中にこの本の初版（1859）が収録されている。

この本は元来仮綴本であったが，いたみのため残念ながら製本されてクロス張りになっているが，幸いにも表紙と裏表紙が利用されて表紙に張られている。

同志社に納本された経過をさぐるべく明治時代からの古い台帳を丹念に調べたが何らの糸口も発見出来なかった。

ただ裏表紙に「理化学器械書フルベッキのサイン村田氏」とあり村田氏が誰か不明であるが村田氏と何か関係ありそうである。明治中期に廃校になったハリス理科学校に備えられていたのかも知れない。フルベッキと同志社とは間接的なつながりがある。即ち熊本洋学校（明治４年）の教師であったジェインズは横井大平（横井小楠の甥）の依頼でフルベッキが紹介した教師であった。その熊本洋学校の生徒多数が同校廃校とともにジェインズのすすめで新島襄の同志社英学校に大挙転校してきた。フルベッキの紹介がなければ同志社に熊本バンドの姿は見られなかったであろう。従って熊本バンドを介してフルベッキと同志社は結ばれているといっても過言ではなかろう。なおアメリカニュージャージ州ニュブルンスウィックのガードナー，A，セイジ図書館にフルベッキ文庫が存在することを書き加えておきます。

▷あとがき◁

○　〝びぶりおてか〟№21をお届けします。
○　今回は法学部長大谷実先生にご寄稿をお願いしました。
○　本号より〝目次〟をつくり１頁に載せております。　　（H. Y. W）

〝びぶりおてか〟　同志社大学図書館報　№21　1977年4月1日　発行

発　行　同志社大学図書館　京都市上京区今出川通烏丸東入　電話 251－3971
編集責任者　楠見愃伸（図書館庶務課長）　印刷　為国印刷㈱